



美谷 芳昭

山口町長に対する問責決議の認識と
その後の対応は!!

皆様の負託に応えていく
所存である。

問 本年3月議会で、山口町長に対する問責決議が可決された。
この重大な決議に、町長はその後公式の場で何も意思表示が無いので、認識とその後対応について、町長に次の質問をしました。

問 町長の判断の遅れや、誠意と熱意の欠如により、新学校の通学路(バイパス)が開校に間に合わないおそれがある、現在の進捗状況はどうか、本当に開校時に間に合うのか。

問 問責決議をどう受け止められているのか、また今後「町政運営の最高責任者としての自覚の欠如」をどの様に補い、「町民や議会に不信と不安を招いた一連の責任」をどうとられるか。

答 議会との意思の疎通の必要性は感じているが、まだ十分といえないと認識している、今後は、山積する本町の課題解決のため、議会と行政が両輪の如く力を合わせて住民の

問 火葬場建設等大型プロジェクトの発注に関し、町長の入札行為の判断ミスから地元建設業者の育成の機会を逃がしたことは責任問題である、今後は町内業者に限定や関与する「制限付き一般競争入札」を導入する気はあるのか。

答 「町内業者の育成を重視すべき」との指摘は真摯に受け止める。
今後は、透明性、競争性の確保を図る一方で、地元企業の育成を重視した入札方法となるように、現在見直しを行っている。

問 現在、詳細設計中で、26年度中に一部区間で着工を予定しており、特に、バイパス部分については、警察や、池田土木と協議中であり、28年4月の開校時には児童・生徒の安全確保に努めたい。

「間に合わす」との明確な
答弁なし

一般質問



原田 健志

一、来年4月からの
『子ども・子育て支援新制度』施行にむけて
二、農業振興策の考え方

問 子ども・子育て支援新制度への対応という中での幼児教育への取り組みその重要性への認識を伺う。

答 幼児教育のさらなる充実に対する考えは、

問 支援新制度において、幼児教育・保育・子育て支援を総合的に推進する事が重要なポイントとして上げられている。
幼児期教育は学校教育の基盤を形成する上で、非常に重要であると認識している。

答 保育所や認定こども園においては、保育所保育指針、また幼稚園教育要領に基づき、教育の目標を健康・人間関係・環境・言葉・表現という5領域に設定し、それぞれの施設で特徴を活かした教育に取り組んでいる。

問 また新制度移行に向けた町の体制について。

答 新制度移行に向け、充実したサービスが提供できるよう、関係機関との連携強化を図る。
今後、教育・保育・子育て支援を総合的に推進する新制度のもと、それぞれの分野において充実が図られるよう、職員の質の向上に努める。

問 保育所と私立幼稚園の役割分担は。

答 私立幼稚園では、その経営方針の中でさまざまな特徴のある教育に取り組んでおられる。一方、公立保育所では、0歳から5歳まで一貫した生活環境の中で、児童と保育士との信頼関係を形成し、情緒の安定や健やかな心身の発達を促すことを中心に、保育・教育に取り組んでいる。

問 子育ての方針に応じた教育・保育を選択できるように、特徴を活かした運営を行っている。

答 特産農産物の定着また、特産加工品づくりに町がどのように積極的に取り組むべきであるか。

農業振興について

問 特産農産物の定着また、特産加工品づくりに町がどのように積極的に取り組むべきであるか。

答 特産品、特産加工品については、消費者動向を的確に把握・分析し、販売と栽培の双方の視点から取り組むことが特産品開発につながるものと考え、そのために必要な情報提供や講習会の実施などに努める。

問 農産加工品の開発に関する考え方は。

答 加工品開発について既存の資源を磨き、さらに際立たせる事が重要であると考え、そのためにブランドを不動のものとする取り組みに注力する。

